

教育活動全体での系統的なキャリア教育推進に向けた実践研究 —基礎的・汎用的能力の育成に注目して—

教育実践力高度化コース 20AD001

浅見 寿文

【指導教員】 石田 耕一 安藤 聡彦 磯田 三津子

【キーワード】 キャリア教育 基礎的・汎用的能力 OPPA カリキュラム・マネジメント

1. 課題設定

本研究の目的は、教育活動全体での系統的なキャリア教育を推進するために必要な要素や在り方について検討することにある。ここでいうキャリア教育を、筆者は「生徒が学校と社会のつながりを実感し、将来に向け必要な基礎的・汎用的能力を身につけることができる教育」と捉えている。

学校は、子どもたちが社会の中で自分らしく生きていく「自己実現」を図り、よりよい社会をつくることに主体的に関わろうとする「社会参画」の力を身に付けるためにあると考える。学校での学びは社会を見据えたものでなくてはならない。これからの変化の激しい社会を生きるために必要な「生きる力」を育成し、社会人・職業人としての自立を目指したキャリア教育の視点を持つことは、教育基本法で示す教育の目的の実現のためにも重要である。

1999年の中央教育審議会（以下、中教審）答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」において初めて登場し、その必要性が提唱されたキャリア教育は学校現場で推進が求められており、2020年の国立教育政策研究所「キャリア教育に関する総合的研究第一次報告書」（以下、2020年報告書）によると、中学校では89.9%の学校がキャリア教育全体計画を作成しているが、キャリア教育がねらい通りに実施されているとは言い難く、同報告書では次のような課題が挙げられている。

- ・各教科での取組など、カリキュラム・マネジメントの観点を踏まえた計画の立案は今後の課題である
- ・体験活動を教科学習や日常生活と関連付け、将来の生き方との接続を意識した事前指導・事後指導のさらなる充実が求められる
- ・キャリア教育の具体的な内容に関する理解につながるような研修内容を工夫していく必要がある
- ・「キャリア・パスポート」の活用については、その意義や効果等についての理解を深める必要がある

所属校においても、キャリア教育の視点に基づき様々な活動を行っているが、それらがその場限りの体験で終わっていることがあり、上で述べた課題が存在する。加えて、教職員間のキャリア教育に対する意識の差や、キャリア教育で育成すべき力を生徒が身に付けているかを見取ることの難しさも存在する。

2. キャリア教育で育成すべき力

キャリア教育の定義は、2011年の中教審答申「今後の学

校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（以下、2011年答申）による「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」である。ここではキャリア教育の意義・効果として3点を挙げている。

- ① 教職員に教育の理念と進むべき方向が共有されるとともに、教育課程の改善が促進される
- ② 学校教育が目指す全人的成長・発達を促す
- ③ 学習意欲の喚起など、学校教育が抱える様々な課題への対処に活路を開くことにつながる

そして、「社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度」のうち、その育成をキャリア教育が中核的に担うべきものとして、「分野や職種に関わらず、社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる能力」として「基礎的・汎用的能力」を提示している。これは、次の4つの能力によって構成されている。

(ア) 人間関係形成・社会形成能力

多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力。

(イ) 自己理解・自己管理能力

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために学ぼうとする力。

(ウ) 課題対応能力

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力。

(エ) キャリアプランニング能力

「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自らの主体的に判断してキャリアを形成していく力。

さらに、2011年答申は「これらの能力をどのようなまとまりで、どの程度身に付けさせるかは、学校や地域の特色、専攻分野の特性や子ども・若者の発達の段階によって異なると考えられる。各学校においては、この四つの能力を参考にしつつ、それぞれの課題を踏まえて具体の能力を設定し、

工夫された教育を通じて達成することが望まれる」としている。キャリア教育の意義・効果を理解した上で基礎的・汎用的能力を土台として「目の前の子どもたちに必要な力」を学校ごとに考え、幼児教育から高等教育まで体系的に進めていく事が求められている。

しかし、教員の中で基礎的・汎用的能力の理解が進んでいない。2020年報告書によると、基礎的・汎用的能力について中学校学級担任の19.9%が「言葉を聞いたことがない」、46.2%が「内容はよく知らない」と回答している。このような状況で、学校独自の工夫された教育を行うことは難しい。基礎的・汎用的能力についての理解を広げていくことが求められている。なお、この基礎的・汎用的能力と平成29年告示学習指導要領(以下、学習指導要領)で示されている「資質・能力の三つの柱」の関係は、2016年の中教審答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」別紙6の中で整理されている。

3. 課題研究の定義

ここでいう課題研究は、キャリア教育の意義と課題やキャリア教育で育成すべき力を整理したうえで所属校の実態に即した実践を行うことで、教育活動全体での系統的なキャリア教育の推進に向けた具体的な在り方を探っていく2年間の研究である。

1年次(令和2年度)は、先行実践についての情報収集を行い、キャリア教育の意義と課題について分析・考察し、所属校における基礎的・汎用的能力の育成に資する実践を検討した。2年次(令和3年度)は、所属校においてPDCAサイクルをまわしながら実践を行い、生徒の基礎的・汎用的能力の育成に注目して効果を検証した。

4. 先行実践のまとめ

(1) 先進的な実践を行っている学校

大阪府高槻市立第四中学校区(赤大路小学校・富田小学校・第四中学校)は、平成22年から25年にかけて文部科学省の研究開発学校指定を受け、小中一貫でのキャリア教育の推進に取り組んだ。「社会参画力の育成」をキーワードに小中連携や小小連携を大切にしながら、校区として9年間を見通した系統的なキャリア教育を実施している。基礎的・汎用的能力を校区の実態を踏まえて具体的に設定し、その視点を日常の授業にも反映させている。

東京都千代田区立麴町中学校は、「社会とシームレスな問題解決型カリキュラム」を作成し、生徒たちが社会で必要とする力を3年間で系統的に育成できるように行事の設定をしている。目的や目標を明確にしたカリキュラム・マネジメントがされており、社会と連携しながら基礎的・汎用的能力の育成が行われている。

(2) 活動を記録し蓄積する教材

中学校学習指導要領「学級活動(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」では、「学校、家庭及び地域における学習

や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、生徒が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること。」と示されている。文部科学省初等中等教育局児童生徒課が2019年3月に教育委員会等に向けて発出した事務連絡によると、この「活動を記録し蓄積する教材等」を「キャリア・パスポート」と呼び、「都道府県教育委員会等、各地域・各学校で柔軟にカスタマイズし、2020年4月より、すべての小学校、中学校、高等学校において実施することとする」とされている。

藤田(2019)は、こうした教材を活用した活動の意義として、次の3点を挙げている。

- ① 教育活動全体で行うキャリア教育の要としての特別活動の意義が明確になる
- ② 小学校から中学校、高等学校へと系統的なキャリア教育を進める事に資する
- ③ 生徒にとっては自己理解を深めるためのものとなり、教師にとっては生徒理解を深めるためのものとなる

また、日本キャリア教育学会第42回研究大会では、次のような効果が挙げられている。

- ① 行事の「目標」や「身に付けたい資質・能力」を生徒も教師も確認できる
- ② 教師や保護者のコメントを通して、生徒に自己肯定感・自己効力感を持たせることができる

しかし、キャリア・パスポートの意義や効果は学校現場において十分に理解されているとは言えない。2020年報告書によると、「キャリア教育を適切に行っていくうえで、キャリア・パスポートを活用すること」を「あまり重要だと思わない」または「まったく重要だと思わない」と答えた中学校学級担任は全体の32%となっている。

5. 本研究の位置づけ

先行実践からキャリア教育充実のための要素をカリキュラム・マネジメントにおけるPDCAサイクルの中で考えると次のようになる。

P(Plan)・D(Do)の段階では、小学校から高等学校まで見通して系統的に取り組むこと(縦のつながり)と、特別活動を要としながら教育活動全体で取り組むこと(横のつながり)の2つの「学びのつながり」を教職員一人一人が意識することが重要である。また、生徒にもこのつながりを意識させたい。そのためには、具体的な目標設定の上でのカリキュラム・マネジメントが求められる。

C(Check)・A(Action)の段階では、生徒の実態や変容を捉え、適切な支援や働きかけを行うことが重要がある。そのためには、活動後だけではなく、活動前や活動中の生徒の実態や変容を把握するための見取りが求められる。筆者がたった先行研究・実践では、十分な見取りについて言及されているものはなく、検討の必要を感じた。見取りには、「活動を記録し蓄積する教材」の活用が重要となる。キャリア・パスポートに加え、教科学習での振り返りシートの活用にあた

っても、こうした視点を持って取り組んでいく必要がある。そこで本研究の仮説を次のように設定した。

- ① 目標を具体化し取組のつながりを明確にしたカリキュラム・マネジメントを行うことでキャリア教育に学校全体で取り組む体制が構築されれば、生徒の基礎的・汎用的能力を育成することができる。
- ② 教科学習において、教師がキャリア教育の視点をもって適切な支援を行ったり授業改善を行ったりすれば、生徒の基礎的・汎用的能力を育成することができる。

6. 2年目の実践について

令和3年度は、所属校において前述の仮説に基づき次の実践を行った。

(ア) 学びのつながりが意識できる単元配列表及びOPPAの考え方に基づくキャリア・パスポートの作成と活用
学校教育目標「『主体性』『社会性』『将来性』を培う生徒の育成」と基礎的・汎用的能力を関連させながら、学校の実態を踏まえた具体的で明確なキャリア教育の目標を後述の6 skillsとして設定した。さらに、その目標の達成に向け、日常生活や行事とのつながりや教科横断的な学びを意識できる単元配列表を作成した。これにより教職員のキャリア教育への理解の深まりや意識の高まりを図った。

キャリア・パスポートは「OPPA（一枚ポートフォリオ評価）」の考え方に基づく作成した。OPPAは堀哲夫氏が2002年に開発したもので、授業の成果を学習者が一枚の用紙（OPPシート）の中に学習前・中・後の履歴として記録し、その全体を学習者自身が自己評価する方法をいう。学習履歴の可視化と変容の明確化により素朴概念から科学的概念へ変容させ、自己評価やメタ認知の能力を育成するとともに、学ぶ意味、学ぶ必然性、自己効力感を感得させるものである。この考え方に基づくキャリア・パスポートには、学年ごとの目標を達成するための本質的な問いを掲げ、定期的にそれに対する自分の考えや履歴を記入させる。これによって生徒は学校生活の様々な場面で「将来につながる学び」を意識し、自分の変容を実感できる。また、教師にとっては自らの働きかけを振り返り実態に応じた適切な支援や働きかけのための十分な見取りとなる。

(イ) 社会科の特質に応じたキャリア教育の充実とOPPシートの活用

学習指導要領に示されている「各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図る」とは、扱う単元や題材等にキャリア教育的な要素を付け加えるのではなく、これまでの授業の中にキャリア教育としての価値を見だし、それを意識して指導することである。担当する社会科において年間指導計画の中で関連するキャリア教育の要素を明示し、適切な場面で学校外の教育力も活用して、キャリア教育の視点を持った授業を行った。加えて、生徒は毎時間の授業の中でOPPシートへの記入を行った。これは前述の効果に加え、社会科の目指す「公民としての資質・能力の基礎の育成」に向けても意義のあるものとなる。また、教師にとってOPP

シートの使用は負担とならず、継続して生徒一人一人への適切な支援や実態に応じた授業改善が可能となる。

7. 具体的な実践

(1) 具体的な目標設定と単元配列表の作成

キャリア教育の目標を明確なものにするため「身につけたいキャリアスキル（6 skills）」を作成した。所属校の実態として落ちていて前向きに学校生活を送ることができる生徒が多い反面、自己肯定感が低い生徒が少ないといった課題がある。また、地域やその近隣に大きな企業が少なく大学等の教育機関もないことから、働くことや学ぶことなどの人の様々な姿を捉えにくいといった課題もあった。こうした実態を受け、4つの基礎的・汎用的能力が育成されている様子を生徒の具体的な姿として示すことで、学校での学びを通して目指す生徒の姿を生徒、教職員、保護者など学校に関わる全ての人にとって明確なものとした。年度当初の職員研修において全教職員で確認し見直しを行った上で教室等に掲示することに加え、研究授業等の指導案や行事等の職員会議での提案にもこの視点を明示している。生徒が「皆野中での学びは社会とつながっている」と実感できるようにすることをねらいとしている。

表1 身につけたいキャリアスキル（6skills）

身につけたいキャリアスキル (6skills)	
皆野中学校学力向上推進委員会	
① 人とつながる (人間関係形成能力)	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の意見をていねいに聴く ・多様性を尊重する ・積極的に人と関わろうとする
② みんなと協力する (社会形成能力)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を分かりやすく伝える ・「チーム皆中」で行動する ・ルールや約束を守る
③ 自分を知る (自己理解能力)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のよさに気付く ・集団の中での自分の役割を考える ・夢や目標など高い志を持つ
④ 自分をコントロールする (自己管理能力)	<ul style="list-style-type: none"> ・自律し、努力を続ける ・今の課題を自ら解決しようとする ・計画を立て、主体的に行動する
⑤ 課題に挑戦する (課題対応能力)	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を見つけて解決する ・計画を立てて改善する ・しなやかに課題をやり抜く
⑥ 進路を選択する (キャリアラジック能力)	<ul style="list-style-type: none"> ・「学ぶ事」「働く事」の意義が分かる ・自分の将来について考える ・体験で得たことを、生活に活かす

この6 skillsの達成に向け、大分県教育委員会の例示を参考に各教科の年間指導計画を整理し「単元配列表」を作成した。この表はキャリア教育の要となる特別活動と教科学習との関連付けや事前・事後指導の充実が意識できるようにすることをねらいとしている。また、教科横断的な学びについても意識できるようにした。これを共有サーバーに電子データを保存した上で全教職員に印刷して配付することに加え、常に確認できるように職員室内にも掲示した。

表2 単元配列表

教科/月	第3学年											
	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
国語	1 書きを練習する 読み【読み】(小説) 書き【書き】(小説)	1 書きを練習する 書き【書き】(小説) 読み【読み】(小説)	2 わかりやすく読む 読み【読み】(小説) 書き【書き】(小説)	3 もの考え方・個性を養う 読み【読み】(小説) 書き【書き】(小説)	4 読解的に考える 読み【読み】(小説) 書き【書き】(小説)	5 古典に学ぶ 読み【読み】(古文) 書き【書き】(古文)	6 情報を整理する 読み【読み】(古文) 書き【書き】(古文)	7 読みを練習する 読み【読み】(小説) 書き【書き】(小説)	8 読みを練習する 読み【読み】(小説) 書き【書き】(小説)			
歴史	第1章 開国と近代日本の歩み	第2章 第二次世界大戦と日本	第3章 戦後の日本と世界									
公民	第1章 現代社会と私たち	第2章 個人の権利と日本国憲法	第3章 現代の政治と社会	第4章 私たちの暮らしと経済	第5章 地球社会と私	第6章 よりよい社会を目指して						
数学	文字式を使って説明しよう (多項式)	数の世界をさらにひろげよう (平方根)	文字式を利用して問題を 解決しよう(2次方程式)	関数の世界を広げよう (関数 $y = ax^2$)	形に着目して図形の性質を調べよう (相似図形)	円の性質を見つけて 証明しよう(円)	三方の定理を活用し よう(三方の定理)	集団全体の傾向を調べよう				
理科	単元1 化学変化とイオン	単元2 生命の連続性	単元3 運動とエネルギー	単元4 地球と宇宙	単元5 地球と私たちの未来のために							
外国語	1 Bentos Are Interesting!	2 Good Night, Sleep Tight.	3 A Hot Sport Today	4 Sign Languages, Not Just Gestures!	5 The Story of Chocolate	6 The Great Pacific Garbage Patch	7 Is a Friend or an Enemy?					
音楽	日本の伝統音楽の発展について、聴き取りを もとめよう	日本の伝統音楽の発展について、聴き取りを もとめよう	日本の伝統音楽の発展について、聴き取りを もとめよう	日本の伝統音楽の発展について、聴き取りを もとめよう	日本の伝統音楽の発展について、聴き取りを もとめよう	日本の伝統音楽の発展について、聴き取りを もとめよう	日本の伝統音楽の発展について、聴き取りを もとめよう					
美術	自分の内面を表現しよう											
技術	生物育成の技術	情報の技術										
家庭												
保健	体づくり運動	器械運動	陸上競技	球技	体づくり運動	水泳	武道	ダンス	球技	陸上競技	球技	
総合	文化・芸術	文化・芸術	文化・芸術	文化・芸術	文化・芸術	文化・芸術	文化・芸術	文化・芸術	文化・芸術	文化・芸術	文化・芸術	
特活	3年生になって 学校の組織を作ろう	修学旅行に向けて 生活目標(目標)を設定しよう	健康と食生活 望ましい人間関係の確立 1学期の生活の充実 男女共同参画社会と私	充実した人生と学習 1学期のまとめをしよう 学校の生活の充実 夏休みの生活設計	2学期の組織と活動計画 体育祭に参加しよう 運動の楽しさを共有しよう 運動の楽しさを共有しよう	2学期の生活の充実 働くこと生きがい 合同コンクールを企画しよう	2学期の生活の充実 働くこと生きがい 合同コンクールを企画しよう	2学期の生活の充実 働くこと生きがい 合同コンクールを企画しよう	2学期の生活の充実 働くこと生きがい 合同コンクールを企画しよう	2学期の生活の充実 働くこと生きがい 合同コンクールを企画しよう	2学期の生活の充実 働くこと生きがい 合同コンクールを企画しよう	
道徳	三十点のメダル ありがたの不思議な力	強さを誇る 国際協力 山本敬謙 赤巻ゼロ 赤のメッセンジャー 日本国政府の代表 伊藤雄之助	二人の弟子 アッロッド・ダウロード 思いのオムライス 私たちの星	星 ぬたを夢見て	電車の中で 粗工風から宇宙へ ほろかなる生命の物語 一羽のノート	二人のエース 稲妻をよめた名 上野山由 銀利足す母 思いのメッセンジャー 二つの手紙 忘れられないこと	未来の日本へビデオ どうして? 銀利足す母 思いのメッセンジャー 二つの手紙 忘れられないこと	卒業文集の二行 白川園に贈られた 礼儀正しく 思いのメッセンジャー 二つの手紙 忘れられないこと	礼儀正しく 思いのメッセンジャー 二つの手紙 忘れられないこと	五井先生と太郎 スナックの力 「命の通った義理」を告白しよう	杉野千鶴の選択 心霊のトラップ 「命の通った義理」を告白しよう	

これらの取組によって「学びのつながり」の中の「横のつながり」を意識できるようにした。教職員全体のキャリア教育への理解を深め意識を高めることで、教育活動全体でのキャリア教育の推進が可能になる。

(2) OPPA を活用したキャリア・パスポートの作成と活用
キャリア・パスポートを意義や効果が実感できるものとするためには、記入している生徒の変容や成長を生徒自身も教師も見取ることができる必要がある。誰でも活用がしやすい形式にするため、OPPA を活用したキャリア・パスポートを作成した。



図1-1 キャリア・パスポート(表面)

様式は全学年同じものとし、1年間を貫く本質的な問いは各学年で設定することとしている。3学年は「よりよい社会をつくるには、どんなことだろうか?そのために

必要な力はどんなものだろうか?」を問いとして、「社会参画」をキャリア教育のキーワードとしている。折に触れて、この問いに対して自らの学びを考える機会を設け、自分の変容を捉えられるようにした。教師からのコメントに加え、学期末ごとに保護者からもコメントをもらうことで生徒の自己肯定感を高めることにもつなげた。

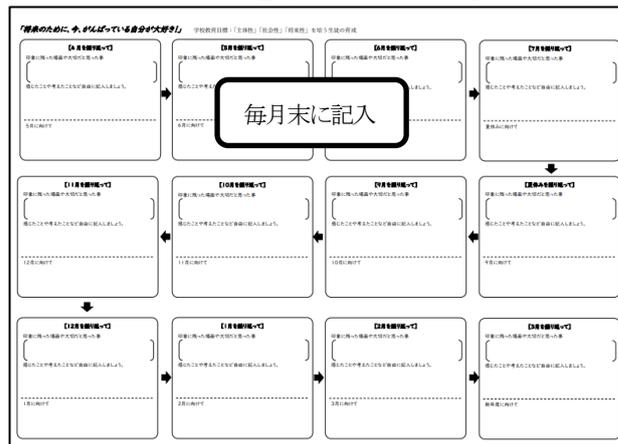


図1-2 キャリア・パスポート(裏面)

裏面では、毎月末にその月を振り返って「印象に残った場面や大切に思った事」などを記入させた。生徒は部活動、学校行事、学習、クラスでの出来事など様々な事柄を挙げているが、学校での学びは全て自分の「より良い将来」につながることを意識させたいと考えた。

年間を通して1枚の用紙に記入することで、生徒が自分自身の変容を捉えやすくなることに加え、教師も生徒一人一人の変容が捉えやすくなり適切な声かけや支援に

つながりやすくなる。また、学びの様子を1枚の用紙で保護者に伝えることは「キャリア教育の通知表」としての役割も果たすものとなる。

(3) 小学校との連携

生徒指導主任として、小中連携対応教諭の兼務発令を受け、校区の小学校で毎週勤務した。6年生への社会科の授業が中心であったが、キャリア教育の推進に向け「学びのつながり」の中の「縦のつながり」を意識して取り組んだ。中学校の生徒や取組の様子を小学校に伝えるとともに、中学校に小学校の児童や取組の様子を伝え情報共有するなど小中連携をすすめた。

小学生に対しては、中学校の授業スタイルで授業を実施したり、小学校と中学校の共通点や違いを伝えたりすることができた。中学生に対しては、小学校での既習事項や取組内容を踏まえ授業や行事を行うことができた。

(4) キャリア教育的視点を意識した行事の実施

キャリア教育につながる各学年の行事の実施にあたっては、ねらいを明確にし「学びのつながり」の中の「横のつながり」を意識した。これらを職員会議を通して教職員の中で共有するとともに、生徒に対しても「何のために行うのか」というガイダンスを行った。

表3 キャリア教育的視点を意識した行事の一例

第1学年 秩父めぐり	
【キャリア教育の視点でのねらい】	
・ 集団行動を通じて、積極的に人間関係を築くことができる。	(人間関係形成能力)
・ 郷土について深めた知識と理解を今後の学習に生かすことができる。	(キャリアプランニング能力)
【事前の学習】	社会科：身近な地域の学習 総合的な学習の時間：皆野町句碑巡り
【事後の学習】	総合的な学習の時間：俳句づくり
第2学年 秩父農工科学高校出前授業	
【キャリア教育の視点でのねらい】	
・ 学ぶことの楽しさや上級学校の理解を深め、自分の適性を考え進路選択の一助とする。	(自己理解能力・キャリアプランニング能力)
【事前の学習】	学級活動：学ぶ制度と機会
【事後の学習】	学級活動：上級学校調べ 学年行事：皆野高校体験授業
第3学年 埼玉大学 WISE-P 出前授業 (Women in Science and Engineering Program) ※埼玉大学教員による出前授業	
【キャリア教育の視点でのねらい】	
・ 最先端の研究や大学という場について知ることで、将来の生き方を考える上での視野を広げ、学習意欲の向上をはかるとともに進路選択の一助とする。	(課題対応能力・キャリアプランニング能力)

【事前の学習】	理科：地球と宇宙 学級活動：さまざまな生き方から学ぶ
【事後の学習】	学級活動：進路決定に向けて 将来の進路と志

(5) 社会科における OPP シートの作成と活用

社会科の授業でキャリア教育を意識する上で、生徒の実態や変容を捉える見取りが大切となる。その見取りをもとに授業改善や生徒への支援を行うことで、実態に即した質の高い教育活動につなげることができる。そこで、OPP シートを活用して授業を行った。OPP シートの内容は以下の通りである。

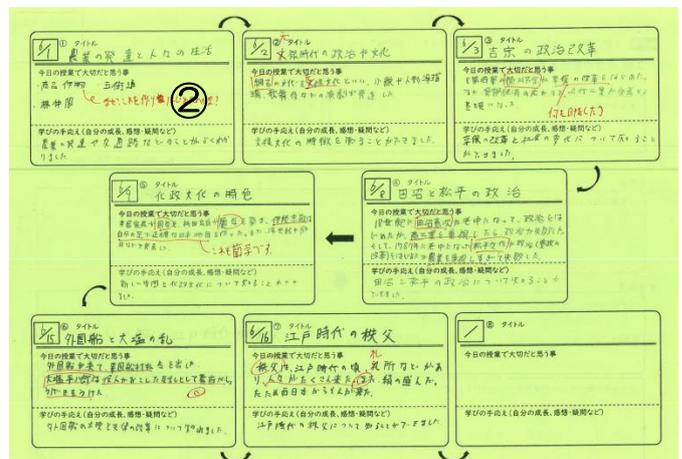
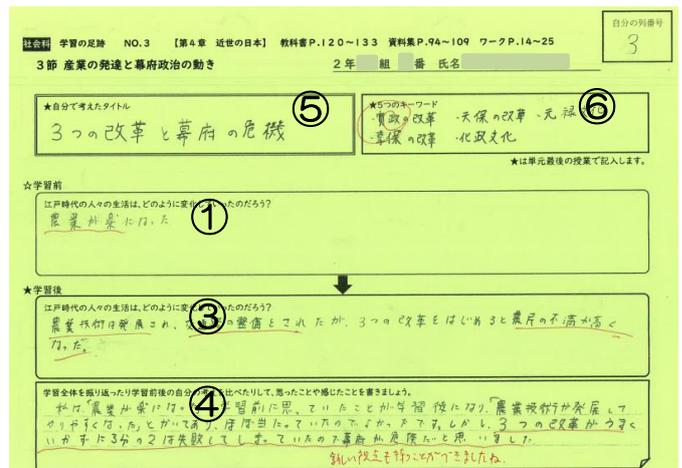


図2 社会科のOPPシート(上:表面、下:裏面)

〈単元の最初に記入〉

① 学習前の段階で、「単元を貫く本質的な問い」(学習内容についての本質的な問い) に対する答えを記入。生徒の持っている知識や理解の状態を把握し、授業づくりの参考とする。(診断的評価)

〈毎時間の授業で記入〉

② 自分で考えた「本時の学習のタイトル」「今日の授業で一番大切だと思う事」「学びの手応え」の3つを記入。あらかじめ教師が想定していた「大切だと思う事」と比較することで、生徒への支援や授業改善の参考とする。(形成的評価)

〈単元の最後に記入〉

- ③ 学習を終えた段階での「単元を貫く本質的な問い」に対する答えを記入。（問いは①と同じ）
- ④ 学習全体を振り返り「思ったことや感じたこと」
- ⑤ 自分で考えた「単元全体のタイトル」
- ⑥ 自分で選んだ「単元全体の5つのキーワード」

③～⑥によって、単元全体の学習の振り返りをする。

このシートが最も重視するのは、自己評価による形成的評価を行うことで学習過程における指導と評価の一体化を図ることである。形成的評価は生徒の学びの状況をつかみ、教師の授業改善や生徒への適切な支援につながる。加えて、生徒も学習を自己評価し自身の学習を改善するとともに資質・能力を身に付けることができる。これはキャリア教育で育成すべき基礎的・汎用的能力の中の「自己理解・自己管理能力」や「課題対応能力」の育成にもつながる。

毎回の授業の中で生徒のシートへの記入に必要な時間は3分程度、教師によるシートのチェックに必要な時間は1クラス 20分程度であり、双方に大きな負担にならない。シートの作成も「単元を貫く本質的な問い」以外は単元ごとに変える部分は少ないので汎用性が高く、作成にかかる時間はわずかである。

8. 実践の結果

(1) 記述から見取った生徒の変容

生徒の具体的な記述内容から、本実践による基礎的・汎用的能力の育成について、前述の6 skills に照らして確認していく。

① キャリア・パスポート等からの見取り

キャリア・パスポートは、1年間を1枚の用紙で記入しているため、現段階では1年を通しての変容を見取ることができないが、途中までの記述でも生徒の視野の広がりなどの変容を見取ることができた。

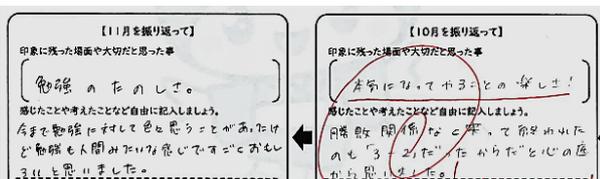
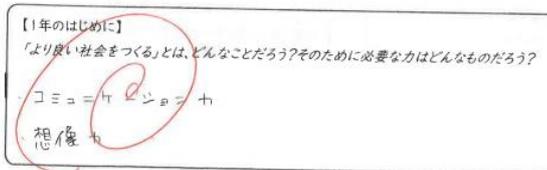


図3-1 キャリア・パスポートへの生徒Aの記述

(上：年度当初、下：10月と11月の振り返り)

(ア) 年度当初には、「より良い社会をつくる」ということについて、「コミュニケーション力、想像力」が必要と記述していた生徒Aは、「印象に残った場面や大切だと思った事」を、10月は文化祭（合唱コンクール）などを通して「本気になってやることの楽しさ」としてお

り、11月は進路実現に向けて学習面で努力していくなかで「勉強のたのしさ」としている。これらは、年度当初に記した問いの答えをより深いものにしていく上で大切な要素になる。6 skills 全般の力が育成されている様子が見て取れるが、特に「④自分をコントロールする」や「⑤課題に挑戦する」が育成されている姿と言える。

(イ) 生徒が教科学習との「学びのつながり」を実感している姿を見取ることもできた。

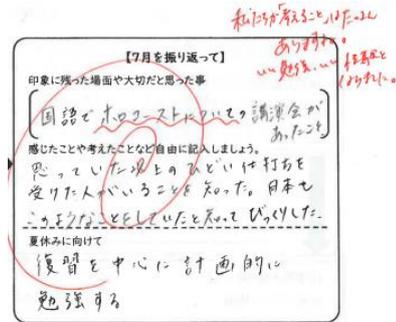


図3-2 キャリア・パスポートへの生徒Bの記述

(7月の振り返り)

生徒Bは、7月の「印象に残った場面や大切だと思った事」に国語科の学習の中でゲストティーチャーを招き、ホロコーストについて学んだ経験を書いている。この経験に教科学習としての意義に加え、1年間を貫く問いが「より良い社会をつくる」であるキャリア教育としての学びの意義も見いだすことができている。国語科での学びを「社会参画」の視点につなげることができており、6 skills の中でも「①人とつながる」や「③自分を知る」が育成されている姿と言える。

(ウ) ねらいを明確にし、「学びのつながり」が実感できる行事を実施したことで、進路選択に向けた視野を広げたり、学ぶことの意義について考えたりすることができた。

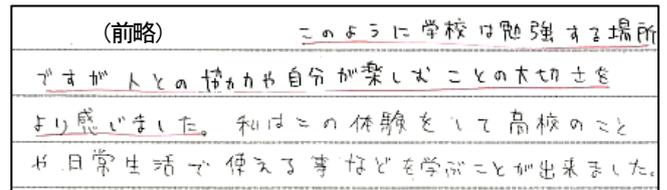


図3-3 高校出前授業を終えての生徒Cの記述

出前授業を行った秩父農工科学高等学校は専門学科のため、自分の進路希望や興味関心に直接かかわる体験内容ではない生徒もいたが、生徒たちはキャリア教育としての意義を見いだすことができていた。生徒Cは学習内容だけではなく「人との協力や自分が楽しむことの大切さ」を感じ、体験を通して「高校のことや日常生活で使えることなどを学ぶこと」ができたことと記述している。計画の段階で行事の主なねらいとしていた6 skills の中の「③自分を知る」と「⑥進路を選択する」に加え、「②みんなと協力する」も育成されていると言える。出前授業の一ヶ月後には、実際に高校に訪問しての皆野高校体験授業がある。「学びのつながり」を実感することで、次の体験も意義のあるものにする事ができると考えられる。

② 社会科の OPP シートからの見取り

OPP シートの活用は教科の目指す資質・能力の育成だけでなく、キャリア教育で育成すべき基礎的・汎用的能力も育成していることを見取ることができた。

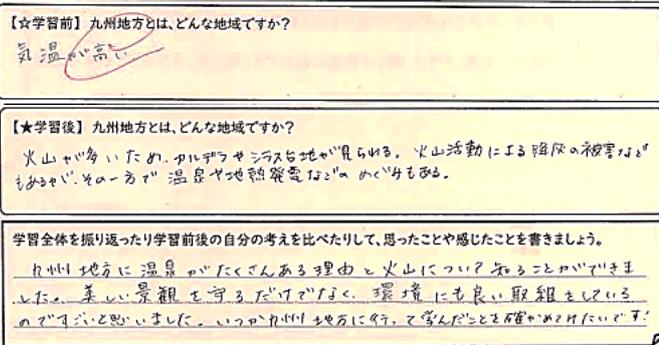


図4-1 OPPシートへの生徒Dの記述

(ア) 生徒Dは、学習前と学習後で同じ「単元を貫く本質的な問い」に対する自分の記述を比較することで、内容の充実や新たな視点での理解の深まりの様子を自分自身で実感しており、その様子が学習全体の振り返りの記述から読み取ることができる。第2学年の「九州地方」の学習では、43名中26名(全体の約60%)が学習全体の振り返りの中に自身の成長を実感している記述が見られた。これは自己効力感を持つことにつながり、6 skillsの「③自分を知る」や「④自分をコントロールする」が育成されたと考える。

表4 自身の成長を実感している記述例
(第2学年「九州地方」の学習全体の振り返り)

学習前では「台風が通りやすい」や「島が多い」といったあたりまえのことを書いていたのですが、学習後では気候のことを考えたり、九州地方の特色を細かく書いて良かったです。
学習前は何も知らなかったけど、学習後には地熱や温泉などの魅力を知って、とても九州に行きたくくなりました。
授業をしていくうちに、九州について深く知ることができたので良かったです。
過去の水俣病などの環境問題を知って、人々の取組によって今のキレイな九州があることが分かりました。
九州の特色を活かして観光スポットも産業もあると知って、すごいなと思いました。

(イ) 新たな疑問や課題意識を持ち、その後の学習への意欲を高めている記述も見取ることができた。

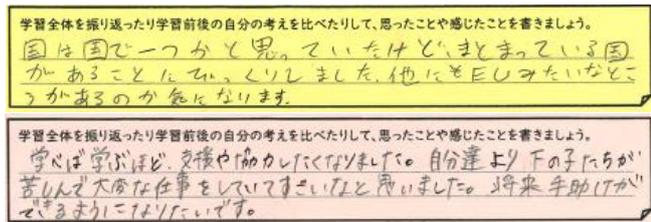


図4-2 OPPシートへの記述

(上：生徒E、下：生徒F)

生徒Eの記述からはヨーロッパの学習を通して持った疑問を今後の学習に生かしていこうという意欲、生徒Fの記述からはアフリカの学習を踏まえて自分の将来の生

き方にまでつなげようという意欲をそれぞれ見て取ることができる。これらは「学ぶ意義」が実感できている姿であり、6 skillsの中の「⑤課題に挑戦する」や「⑥進路を選択する」が育成されていると言える。

(2) 個に応じた支援

教師が生徒の記述から一人一人の状況を見取り、個に応じた適切な支援につなげる在り方について、具体的な場面を挙げて確認していく。

① キャリア・パスポートによる見取りをもとにした支援
キャリア・パスポートを活用した支援は、生徒の基礎的・汎用的能力の育成に資するものであった。

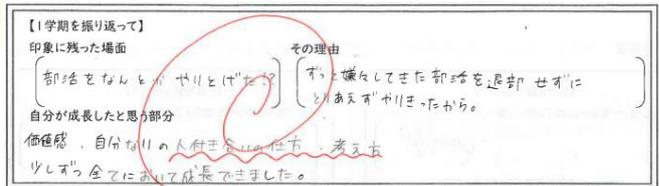


図5-1 キャリア・パスポートへの生徒Gの記述
(1学期の振り返り)

(ア) 生徒Gは、人間関係の不調から部活動に前向きに取り組むことのできない時期もあったが、引退まで続けたことで「自分なりの人付き合いの仕方、考え方が成長した」と1学期の振り返りに記述している。人間関係の構築に苦手さを感じながらも集団活動を通して自分の成長を実感しているという生徒の状況を踏まえ、担任を中心に2学期の学校行事等にもクラスで協力して取り組むことで自分を高めていこうという働きかけを行った。その結果、2学期も人間関係等に悩みながらも行事にも意欲的に参加し、前向きな学校生活を送ることができた。キャリア・パスポートの記述によって、生徒の状況を把握し適切な支援につなげることができた事例と言える。

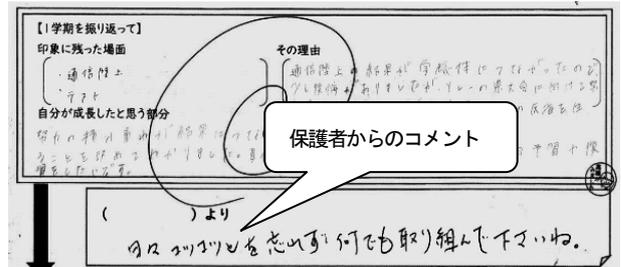


図5-2 キャリア・パスポートへの生徒HとHの父親の記述 (1学期の振り返り)

(イ) キャリア・パスポートには、学期ごとに保護者からコメントを書いてもらう欄を設けている。様々な事情で保護者にコメントをもらうことが難しい場合には、部活動の顧問など担任以外の教師がコメントを書くなどの対応も可能としている。生徒Hの1学期の振り返りに対して、父親がコメントを書いている。学級担任だけでなく違った立場の大人からコメントをもらうことは、生徒の自己肯定感を持たせることにつながる。

② 社会科における OPP シートを活用した支援

社会科の授業の中では年間を通して OPP シートを活

用した。その中で、教師の適切なコメントによって生徒の成長を支援することができた。

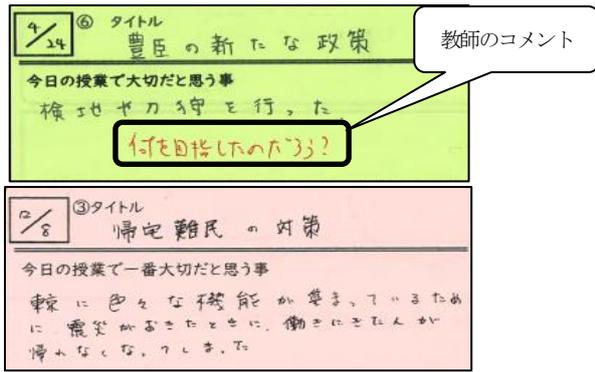


図6-1 OPPシートへの生徒Iの記述の変容

(上：4月、下12月)

生徒Iは、4月の段階では、毎時間の授業で記入する「大切だと思う事」に事実だけを書いていたが、12月には根拠を示し因果関係を明確にした記述ができるようになってきた。これは、思考を深める教師の働きかけがOPPシート内でも行われていたことの成果であると考えられる。事実だけの記入に対して教師が「何を狙っていたのだろうか？」と一言コメントを加えることが、生徒が更に深く考えるきっかけとなる。教師にとって大きな負担にならない、個に応じた適切な支援になっている。また、4月の段階では「大切だと思う事」に多くの内容を箇条書きで書く生徒もいた。そこで「一番大切だと思う事」と質問を変えることで、特に大切なことを判断して書けるようになった。毎時間の記入に対しての見取りによって、生徒の実態に応じた対応ができた事例と言える。生徒の学習改善と教師の授業改善の双方に効果のある取組となっており、これは生徒の基礎的・汎用的能力の育成にもつながるものである。

また、当初は想定していなかったことであるが、授業に関わる教員間の連携にOPPシートが有効であった。所属校の第2学年の社会科は1組・2組は筆者が、3組は別の社会科教員が担当しているが、生徒用のOPPシートにあらかじめ教師が大切だと思う事を整理した「教師用シート」を作成し、授業で生徒に大切であると思わせたい部分を明確にすることで、授業のねらいを共有することができた。

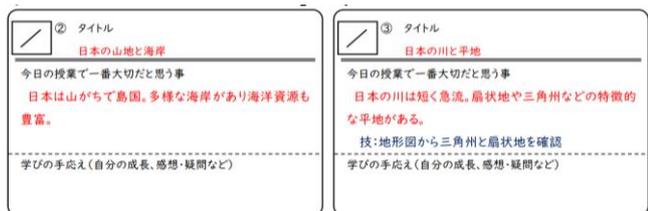


図6-2 教師用シート

(3) 成果と課題

仮説①の「キャリア教育に学校全体で取り組む体制の構築」については、具体的な目標設定、単元配列表、OPPAに基づいたキャリア・パスポートといった具体的な取組

によって共通実践を行い、教職員の意識を高めることができた。行事と教科の関連、教科横断的な学び、小中連携、高校への接続といった「学びのつながり」を教職員が意識することはキャリア教育の充実に加え、それぞれの教科の学習にとってもプラスに働くものである。

仮説②の「教師の適切な支援や授業改善」についてはOPPAに基づいたシートの活用によって、生徒一人一人の状況を見取り、個に応じた支援や授業改善につなげることができた。そのためには、生徒が自分の言葉で書き、教師がそれを見取ることが重要であった。また、社会科とキャリア教育の親和性は高く、様々な場面でキャリア教育の視点を持って社会科の授業を行うことができた。

そして、前述の生徒の姿や具体的な記述などから本実践は生徒の基礎的・汎用的能力の育成に資するものであったと考える。その育成を支えたのは、今の自分を捉え成長していこうという意欲を持つ「自己肯定感」と、今の学びが将来につながると実感する「学ぶ意義の理解」であった。こうした土台を安定させるためには、生徒が学んだことや感じたことを自分の言葉で書き自己評価を行うことと、教師が適切な支援につなげるために見取り、コメントをすることが重要であると考えられる。

こうした取組の発展と継続が今後の課題となる。キャリア教育を教育活動の軸とすることは、所属校の教育の特色となっている。ここ数年、教職員の異動が少なく、こうした学校文化が理解されスムーズに引き継がれてきた。今後、人事異動で教職員が入れ替わる中で、培ってきた学校文化をチーム学校として継続し発展させる組織づくりが求められる。学級担任など一部の教員への負担が大きくなれば継続的な活用は難しい。学年の教員などチームとして生徒の学びを見取り、支援や改善につなげていく効率的なシステムを検討していく必要がある。

「何のためのキャリア教育か」という目的を見失わず、学校での学びと社会をつなぐことを意識して今後もキャリア教育の推進に尽力したい。

9. 参考文献

- 1) 藤田晃之監修 高槻市立赤大路小学校・富田小学校・第四中学校 編著(2015)『ゼロからはじめる小中一貫キャリア教育』実業之日本社,38-39
- 2) 工藤勇一(2018)『学校の「当たり前」をやめた。』時事通信社,99-103
- 3) 藤田晃之(2019)『キャリア教育フォービギナーズ』実業之日本社,303-304.
- 4) 日本キャリア教育学会(2020)『第42回研究大会 発表論文集』
- 5) 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)』,25.164
- 6) 堀哲夫(2019)『新訂一枚ポートフォリオ評価 OPPA 一枚の用紙の可能性』東洋館出版社,18-25.38-47
- 7) 大分県教育委員会「令和3年度 中学校単元配列表の公開」<https://www.pref.oita.jp/site/kyoiku/r3-tangenhairetsu-jrhigh.html>(2022年1月31日閲覧)